

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

コニシ

4956 東証 1 部

[企業情報はこちら >>>](#)

2020 年 12 月 28 日 (月)

執筆：客員アナリスト

寺島 昇

FISCO Ltd. Analyst **Noboru Terashima**



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

目次

■ 要約	01
1. 2021年3月期第2四半期の業績動向	01
2. 2021年3月期の業績見通し	01
3. 新しい中期経営計画を策定中	01
■ 事業概要	02
1. 主要な事業セグメント	02
2. 市場シェアと競合企業	03
3. 特色、強み	03
■ 業績動向	04
1. 2021年3月期第2四半期の業績概要	04
2. 2021年3月期第2四半期のセグメント別状況	05
3. 2021年3月期第2四半期の主なトピックスと設備投資額	07
■ 今後の見通し	08
1. 2021年3月期の業績見通し	08
2. 設備投資額と減価償却費	09
■ 中長期の成長戦略	09
■ 株主還元策	10

■ 要約

新国内トップクラスの接着剤メーカー。 産業用、住宅用、土木用など製品ラインナップは幅広い

コニシ<4956>は、「ボンド」ブランドで知られる国内トップクラスの接着剤・シーリング材メーカーである。一般家庭用が有名であるが、産業用、住宅・建材用、建築・土木用と幅広い製品をそろえており、主たる市場は住宅・建築・土木関連である。

1. 2021年3月期第2四半期の業績動向

2021年3月期第2四半期の業績は、売上高61,894百万円(前年同期比5.1%減)、営業利益2,717百万円(同11.2%減)、経常利益2,749百万円(同12.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,711百万円(同13.0%減)となった。セグメント別では、新型コロナウイルス感染症の拡大(以下、コロナ禍)の影響により主力のボンド事業と化成事業が減収・減益となったが、土木建設事業は工事請負事業である子会社が好調であったことなどから前年同期比では増収・増益となった。

2. 2021年3月期の業績見通し

2021年3月期の業績は、売上高128,000百万円(前期比5.3%減)、営業利益5,900百万円(同17.1%減)、経常利益5,950百万円(同17.9%減)、親会社株主に帰属する当期純利益3,700百万円(同19.3%減)が予想されている。セグメント別では、ボンド事業と化成事業は通期でも減収・減益予想だが、上期に増益となった土木建設事業は増収・減益予想となっている。これは2020年3月期第4四半期において工事請負事業である子会社がかかり好調であったことから控え目に予想したもので、現在の足元の状況から判断すると予想を上回る可能性は高い。言い換えれば、営業利益5,900百万円の予想はボトムラインと言えそうだ。また年間36円配当は継続する予定だ。

3. 新しい中期経営計画を策定中

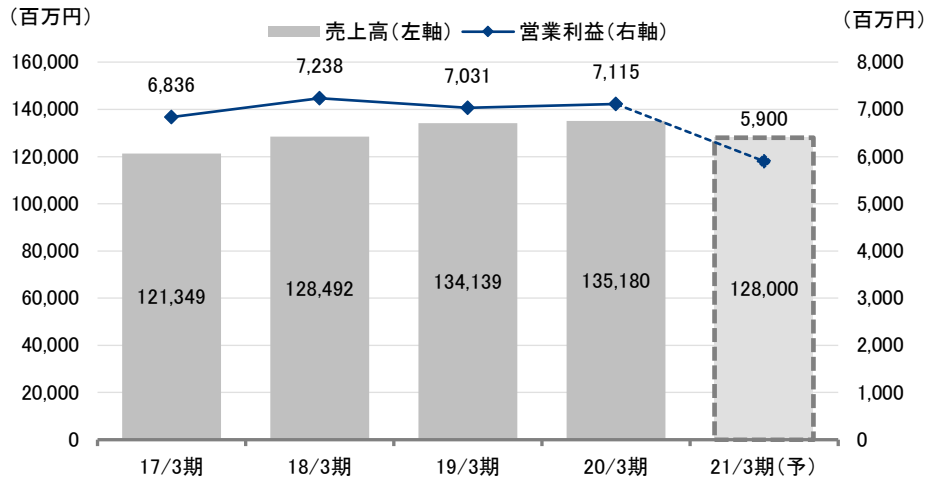
同社は、2021年3月期を最終年度とする中期経営計画を発表していたが、コロナ禍により目標を達成することは難しくなった。そのためこの計画は一旦白紙とし、今後の新型コロナウイルス感染症の状況(ウィズコロナ、アフターコロナ)を見据えた新しい中期経営計画を策定中だ。正確な時期は未定だが、この新中期経営計画がどのような内容になるのか注目したい。

Key Points

- ・国内最大級の接着剤・シーリング材メーカー。向け先は住宅用、産業用、土木建設補修用等幅広い
- ・2021年3月期はコロナ禍の影響で減益予想だが営業利益59億円がボトムライン

要約

業績の推移



出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 事業概要

国内トップクラスの接着剤・シーリング材メーカー。 産業用、住宅・建材用、建築・土木用と幅広い製品群をそろえる

1. 主要な事業セグメント

同社の事業セグメントは、「ボンド」「化成品」「土木建設」「その他」の4セグメントとして開示されている。2020年3月期（直近通期）の売上高比率は、ボンド事業37.0%、土木建設事業22.8%、化成品事業40.0%、その他0.2%となっている。営業利益（全社消去前）の比率は、ボンド事業が60.6%、土木建設事業が28.6%、化成品事業が7.7%となっている。化成品事業の利益の比率が低いのは、同事業が仕入販売を行う商社事業であるのに対して、ボンド事業及び土木建設事業は自社で製造・販売・エンジニアリング等を行っているためである。各事業の概要については以下のとおりとなっている。

(1) ボンド事業

ボンド事業では、主に一般家庭用、住宅・建材用、産業資材用の各種接着剤、シーリング材及びワックス・両面テープ等の製造販売を国内外で行っている。アイテム数は「ボンド」のブランドが付く商品だけで約6,500アイテムに上り、業界での品ぞろえは国内で群を抜いている。また、子会社サンライズ（株）では主に戸建て用の建築用シーリング材や自動車用シール材・接着剤を製造・販売している。もう1つの子会社ウォールボンド工業（株）は壁紙用接着剤の製造販売を行っている。

事業概要

(2) 土木建設事業

2016 年 3 月期から新しいセグメントとしてそれまでの「その他事業」から分離され、さらに 2018 年 3 月期からはコニシ本体に含まれていたボンド事業の一部の製品（主に土木建設用）が組み入れられた。内容は子会社のボンドエンジニアリング（株）、コニシ工営（株）、近畿鉄筋コンクリート（株）、角丸建設（株）で手掛ける工事請負事業とコニシ本体で製造される土木建設用接着剤やシーリング材が含まれる。工事請負事業は、主に官公庁、鉄道会社、道路公団等から発注された道路、鉄道、トンネル、橋梁などの補修・補強工事を請負うもの。同社の場合は接着剤メーカーとしてのノウハウや経験を生かした補修・補強工事を専門で行っているのが特色である。

(3) 化成品事業

化成品事業では石油化学製品、合成樹脂、工業用薬品全般、電子機能性材料の仕入販売を行っており、主たる業務は商社的な事業である。同社の根源とも言える事業であるが利益率は低いため、新しい中期経営計画では引き続き抜本的な改革を推進する計画だ。

(4) その他

その他事業は不動産賃貸業。以前は売上高・利益ともに微少であったが、本社ビルを取得し、その一部の賃貸を開始したことから利益においてはそれなりの比重を占めている。

2. 市場シェアと競合企業

主力製品である合成接着剤においては生産量ベースでの市場シェアは 10% 強の水準と推計され、ここ数年はわずかながら上昇トレンドにある。また、金額ベースのシェアは 12 ~ 13%（建設用シーリング材を除く）と推計され、国内では数量・金額ともトップシェアとなっている。

主な競合企業は、一般家庭用ではセメダイン <4999>、住関連用では主にアイカ工業 <4206>、セメダイン、（株）オーシカなどがある。建設シーリング材では横浜ゴム <5101>、サンスター技研（株）などと競合する。建設・土木用では、接着剤ではショーボンド化学（株）（現 ショーボンドマテリアル（株））との競合となるが、実際の工事現場では子会社のボンドエンジニアリングがショーボンド建設（株）と競合する格好となっている。また、工場生産用では昭和電工 <4004>、ハンケルジャパン（株）やオーシカ等が競合大手である。また、エレクトロニクス製品の生産用ではセメダインや（株）スリーボンドと競合するが、両面テープまで広げると日東電工 <6988> やスリーエムジャパン（株）が競合企業として挙げられる。

3. 特色、強み

(1) ブランド力

同社の最大の強みは「ボンド」の持つ圧倒的なブランド力である。一般家庭向けの「ボンド木工用」から建築用、産業用の「ボンド」まで、老若男女を問わず誰もが「ボンド」の名を知っている。

(2) 製品ラインナップと販売網

前述のように製品ラインナップが豊富なことも同社の特色である。また、幅広い製品ラインナップは企業の収益基盤としての強みでもある。

事業概要

(3) 接着剤専業としての強みと販売網

前述のように多くの競合企業（セメダインを除く）は接着剤の専門メーカーではなく、化学品メーカーが多い。言い換えれば、競合企業にとって接着剤は本業ではなく1つの事業でしかない。これに比べて同社は接着剤専業メーカーであるため、顧客からの信頼は厚い。これも同社の特色であり、強みだろう。

業績動向

コロナ禍の影響で営業利益は前年同期比 11.2% 減

1. 2021年3月期第2四半期の業績概要

(1) 損益状況

2021年3月期第2四半期の業績は、売上高61,894百万円（前年同期比5.1%減）、営業利益2,717百万円（同11.2%減）、経常利益2,749百万円（同12.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,711百万円（同13.0%減）となった。セグメント別では、コロナ禍の影響により主力のボンド事業と化成品事業が減収・減益となったが、土木建設事業は子会社が好調であったことなどから増収・増益となった。

営業利益の増減要因を見ると、マイナス要因としては、売上高の減少による利益の減少が994百万円（ボンド事業1,010百万円減、土木建設事業98百万円増、化成品事業107百万円減、その他25百万円減、調整額51百万円増）、販売価格の低下で41百万円減（ボンド事業32百万円減、土木建設事業9百万円減）等があった一方で、プラス要因としては、工場経費の減少116百万円（ボンド事業94百万円減、土木建設事業21百万円減）、原材料価格の変動（低下）219百万円（ボンド事業152百万円、土木建設事業66百万円）、販管費の減少357百万円（ボンド事業334百万円減、土木建設事業2百万円増、化成品事業52百万円減、その他6百万円減、調整額34百万円増）があり、結果として営業利益は前年同期比343百万円減少した。

2021年3月期第2四半期の業績

（単位：百万円）

	20/3期2Q		21/3期2Q		前年同期比	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	65,196	100.0%	61,894	100.0%	-3,302	-5.1%
売上総利益	11,072	17.0%	10,372	16.8%	-700	-6.3%
販管費	8,012	12.3%	7,655	12.4%	-357	-4.5%
営業利益	3,060	4.7%	2,717	4.4%	-343	-11.2%
経常利益	3,125	4.8%	2,749	4.4%	-376	-12.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,968	3.0%	1,711	2.8%	-257	-13.0%

出所：決算短信よりフィスコ作成

(2) 財務状況

2021年3月期第2四半期末の財務状況は、流動資産は前期末比で4,405百万円減少し69,098百万円となった。主に現金及び預金の増加423百万円、受取手形及び売掛金の減少4,138百万円、たな卸資産の減少315百万円による。固定資産は前期末比で1,686百万円増加し34,296百万円となったが、主に設備投資による有形固定資産の増加949百万円、のれんの償却による無形固定資産の減少52百万円、投資その他の資産の増加789百万円による。その結果、資産合計は103,394百万円（前期末比2,719百万円減）となった。

負債合計は、39,230百万円（同3,523百万円減）となったが、主に支払手形及び買掛金の減少2,647百万円、1年内返済予定の長期借入金を含む短期借入金の増加334百万円、長期借入金の増加373百万円、退職給付に係る負債の増加23百万円等による。また、純資産合計は、主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加878百万円等から64,163百万円（同803百万円増）となった。

土木建設事業は堅調ながらボンド事業と化成品事業が軟調に推移

2. 2021年3月期第2四半期のセグメント別状況

2021年3月期第2四半期のセグメント（事業）別業績

(単位：百万円)

	20/3期2Q		21/3期2Q		前年同期比	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	65,196	100.0%	61,894	100.0%	-3,302	-5.1%
ボンド事業	25,074	38.5%	22,384	36.2%	-2,690	-10.7%
土木建設事業	13,223	20.3%	15,220	24.6%	1,997	15.1%
化成品事業	26,759	41.0%	24,164	39.0%	-2,595	-9.7%
その他	137	0.2%	125	0.2%	-12	9.1%
営業利益	3,060	4.7%	2,717	4.4%	-343	-11.2%
ボンド事業	2,089	8.3%	1,628	7.3%	-461	-22.1%
土木建設事業	608	4.6%	782	5.1%	174	28.7%
化成品事業	263	1.0%	208	0.9%	-55	-20.9%
その他	113	82.5%	94	75.2%	-19	-16.6%
(調整額)	-14	-	2	-	-	-

出所：決算短信よりフィスコ作成

(1) ボンド事業

セグメント売上高は22,384百万円（前年同期比10.7%減）、同営業利益は1,628百万円（同22.1%減）となった。コロナ禍の影響により主な向け先である住宅関連や自動車・電子部品が低調に推移して減収、減益となった。業界別の売上高及び状況は以下のようであった。

a) コニシ一般家庭用：売上高3,206百万円（同2.9%減）

コロナ禍の影響による巣ごもり需要などからホームセンター向けは堅調であったが、コンビニエンスストア向けが減少した。

業績動向

b) コニシ住宅関連用：売上高 9,402 百万円 (同 9.3% 減)

コロナの影響で新設住宅着工件数が大きく減少し、内装工事が減少した。一方で補修用シーリング材は比較的堅調で増収となった。

c) コニシ産業資材用：売上高 3,061 百万円 (同 14.7% 減)

紙関連用、自動車・電子部品用（主にスマートフォンやスピーカー向け等）などで全体的に低調に推移した。

d) コニシテープ：売上高 1,428 百万円 (同 10.3% 減)

以前は産業資材用に含まれていたが、順調に売上高が増加したことから、前々期より新しいサブセグメントとして切り出された。この上期は住宅関連用が不調で減収となった。

e) サンライズ：売上高 3,892 百万円 (同 12.9% 減)

住宅用シーリング材、自動車用接着剤が低調であった。

f) ウォールボンド工業：売上高 1,243 百万円 (同 9.7% 減)

主要製品は壁紙用接着剤であることから、100% が住宅関連である。コニシ住宅関連用と同様に、住宅着工数の減少の影響を受けて低調に推移した。

土木建設事業は子会社が好調で増収・増益

(2) 土木建設事業

土木建設事業の売上高は 15,220 百万円 (同 15.1% 増)、営業利益は 782 百万円 (同 28.7% 増) となった。後述するように、主に子会社が堅調であったことから増益を確保した。各子会社やサブセグメントの状況は以下のようであった。

a) コニシ建設用：売上高 5,158 百万円 (同 11.3% 減)

コロナ禍の影響で各種工事（特にマンション等）が中断した影響で補修材や建築用シーリング材が減少した。

b) コニシ土木用：売上高 1,196 百万円 (同 14.2% 増)

表面保護、はく落防止工法、連続繊維シート補強工法が堅調に推移した。道路や橋梁などの大型工事向けが多いことからコロナ禍の影響は比較的少なかった。

c) ボンドエンジニアリング：売上高 4,433 百万円 (同 9.6% 増)

コロナ禍の影響は少なく、インフラ・ストック市場の補修・改修・補強工事等が引き続き好調に推移したことから増収・増益を維持した。

d) コニシ工営：売上高 630 百万円 (同 22.4% 減)

北海道を地盤とする連結子会社。コロナ禍の影響で工事の延期や工事規模縮小が発生し、業績は低調であった。

業績動向

e) 近畿鉄筋コンクリート：売上高 984 百万円 (同 316.0% 増)

前期は施工先の橋梁構築工事の大幅遅れが発生したが、今期は工事が順調に進捗したことから前年同期比では大幅増収となった。

f) 角丸建設：売上高 3,044 百万円 (同 91.2% 増)

2017年7月から連結に加えられた子会社。工事が順調に進捗し受注も好調であったことから大幅増収となった。

化成品事業ではコニシ本体が低調で減益

(3) 化成品事業

化成品事業の売上高は 24,164 百万円 (同 9.7% 減)、営業利益は 208 百万円 (同 20.9% 減) となった。主な業界別売上高は以下のようになった。

a) 自動車：売上高 7,854 百万円 (同 18.2% 減)

車載用商材は回復基調だが、第1四半期の自動車生産停滞の影響を受けて減収となった。

b) 化学工業：売上高 3,811 百万円 (同 5.6% 増)

樹脂原料は低調に推移したが、消毒液向けなどのエタノール関連商材が大きく増加し、前年同期比では増収となった。

c) 電子・電機：売上高 3,085 百万円 (同 3.8% 減)

コロナ禍の影響もあり全体的に低調に推移したが、半導体封止材向け商材は順調であった。

d) 塗料：売上高 1,734 百万円 (同 18.3% 減)

自動車補修用塗料を含めて全体的に不調であった。

e) 丸安産業(株)：売上高 5,765 百万円 (同 0.2% 増)

主力のコンデンサー向け電材は前年同期が悪かったこともあり復調した。健康食品用原料も好調に推移した。

(4) その他事業

不動産賃貸業が中心。売上高 125 百万円 (同 9.1% 減)、営業利益 94 万円 (同 16.6% 減) となった。

3. 2021年3月期第2四半期の主なトピックスと設備投資額

(1) 「山昇建設(株)(名古屋市)」を子会社化(2020年7月)

東海地方を中心に土木建設工事(耐震補強、橋梁補修など)を請け負う工事会社で、コニシグループ関係会社との協業で「土木建設事業」の拡大を目指す。山昇建設の業績(2019年9月期)は、売上高 1,219 百万円、営業利益 14 百万円。買収金額は数億円、のれん負担は大きくないとしている。

業績動向

(2) 新たな働き方改革

営業部門では、「フリーアドレス制」の導入を進めている(関東支社2019年9月～、大阪本社2020年12月～)。また「テレワーク制」を導入し直行直帰を中心とする営業スタイルへ変更する。これにより、効率化を意識した営業の業務改革を推進する。研究開発部門においては、「スーパーフレックス制」「ローテーション休暇制」を導入し、研究テーマ開発の効率化を推進する。

(3) 設備投資額と減価償却費

2021年3月期第2四半期の設備投資額は通常の機械設備等の更新も含めて1,487百万円、減価償却費は862百万円であった。

■ 今後の見通し

2021年3月期の営業利益は、コロナの影響で17.1%減予想

1. 2021年3月期の業績見通し

2021年3月期の業績は、売上高128,000百万円(前期比5.3%減)、営業利益5,900百万円(同17.1%減)、経常利益5,950百万円(同17.9%減)、親会社株主に帰属する当期純利益3,700百万円(同19.3%減)が予想されている。

セグメント別では、ボンド事業は売上高44,755百万円(同10.5%減)、営業利益3,356百万円(同22.5%減)、土木建設事業は売上高32,310百万円(同4.7%増)、営業利益1,843百万円(同9.8%減)、化成品事業は売上高50,685百万円(同6.3%減)、営業利益499百万円(同9.9%減)と予想されている。土木建設事業は増収ながら下半期はコニシの接着剤が下がると予想されること、2020年3月期第4四半期がボンドエンジニアリングなどの子会社が特に好調だったことなどから減益予想となっているが、控え目な予想と言えそうだ。

今後の見通し

2021年3月期の業績見通し

(単位：百万円)

	20/3期		21/3期(予)		
	金額	売上比	金額	売上比	前期比
売上高	135,180	100.0%	128,000	100.0%	-5.3%
ボンド事業	49,979	37.0%	44,755	35.0%	-10.5%
土木建設事業	30,844	22.8%	32,310	25.2%	4.7%
化成事業	54,084	40.0%	50,685	39.6%	-6.3%
その他	271	0.2%	250	0.2%	-7.7%
営業利益	7,115	5.3%	5,900	4.6%	-17.1%
ボンド事業	4,331	8.7%	3,356	7.5%	-22.5%
土木建設事業	2,044	6.6%	1,843	5.7%	-9.8%
化成事業	553	1.0%	499	1.0%	-9.9%
その他	219	80.8%	202	80.8%	7.8%
(調整額)	-32	-	-	-	-
経常利益	7,248	5.4%	5,950	4.6%	-17.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,585	3.4%	3,700	2.9%	-19.3%

出所：決算概況よりフィスコ作成

2. 設備投資額と減価償却費

2021年3月期の設備投資額は7,120百万円、減価償却費は1,907百万円が見込まれている。主な内容は、工場排水処理施設更新（滋賀工場）、サンライズ小山工場新設（栃木県）、コニシ大阪本社フリーアドレス制導入、コニシ新基幹システム導入、ボンドエンジニアリング名古屋支店建設、水性製造所新設（コニシ栃木工場）、トラック車両購入（自社配送化の推進）などとなっている。ただし、コニシ栃木工場の水性製造所新設については2022年3月期に延期される可能性もある。

■ 中長期の成長戦略

「中期経営計画 2021」は一旦白紙、新中期経営計画を策定中

同社では、2021年3月期を最終年度とする「新中期経営計画 2021」を推進してきたが、コロナ禍の影響もありこの目標を一旦白紙とした。現在、アフターコロナを見据えた新しい計画を策定中であり、今後はこの新計画がどのような内容になるか注目したい。

■ 株主還元策

年間 36 円配当を継続、自己株式取得も実施

同社は 2017 年 3 月期の年間配当を 24 円とし、2018 年 3 月期には記念配当 2 円を加えて年 26 円へ増配し、2019 年 3 月期も 26 円配当（配当性向 21.4%）を行った。さらに 2020 年 3 月期には記念配当 10 円を加えた年 36 円配当を実施したが、2021 年 3 月期も普通配当で年間 36 円（中間期 18 円、期末 18 円）を行う予定だ。

一方で 2015 年 11 月に 1,366 千株の自社株買いを実施したことに続き、2017 年 8 月に 350 千株、さらに 2018 年 8 月に 200 千株の自社株買いを実施した。さらに 2020 年 8 月にも 500 千株（752 百万円）の自己株式取得を行っており、このような株主還元に対する同社の姿勢は評価に値すると言えるだろう。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-11-9

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（情報配信部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp